

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム奏音
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大阪府大東市
記入者名 (管理者)	池田 友紀
記入日	平成 20年 9月 10日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中に溶け込み、お一人お一人のペースに合った生活を支援しながら「ありのまま その人らしく ここちいい暮らしを」の理念を創りあげている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が、いつも目につく所に掲示し、自然に意識づけできる様になっている。毎月の職員会議の中で理念に沿ったケアのあり方について確認したり、理解を深める様になっている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族へは来訪時やケアカンファレンス参加時に、理念に沿ったケアプランと共にケア内容、運営方針に関しての理解を求めている。地域の方には運営推進会議時などにグループホームの理念、方針などについて理解してもらおう様に取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩されている方や、入居者の散歩時は近隣の方々に挨拶している。又、運営推進会議やサポーター講習会を通して地域の方々との交流に努めている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域主催のお祭りなどに参加したり、近隣の工場見学をさせてもらうなど交流をしている。地域の方に向けた認知症の講習会も行った。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症サポーター講習会の実施や認知症介護についての相談に応じている。他の事業者と協力し地域に役立つ介護マップ作りをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を用い実施している。それによって職員の課題が認識がよく理解でき、日々の仕事の改善に生かせる様に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域住民の方や近隣の事業所の方の意見を頂き、地域の中でのグループホームの役割や意義を伝えている。会議の内容を職員に報告し改善に取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回程度、市の高齢介護課へ出向き情報交換に努めている。又、市より認知症サポーターなどの講習会の要請を受け実施している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は研修会の機会を利用し学び、必要な方へは利用できる機関を紹介できる体制になっている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などで高齢者虐待について学び、職員全員に伝え理解を深める様にしている。職員のストレスから虐待につながることをのらないよう、職場環境をよくしていく様に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には、不安な事や疑問点などない様に十分理解されるまで説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の窓口として担当者を2名置き、速やかに対応できる様にしている。利用者の意見や不満などは言いやすい様に、職員から声をかけたり、家族から聞いてもらうなど、心がけている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、月次報告書、受診報告書、機関誌(半年に1回発行)を送っている。又、面会時に現状を伝える様にしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の窓口として担当者を2名置いており、重要事項説明書に明記している。都度、家族とはよくコミュニケーションをとり、意見等反映できる様にしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議を開催し、職員の意見を聞く機会をもうけている。又、年1回個人面談を行ったり、日頃からよく声を掛け合い、意見や不満等が無いかが聞くように努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務時間は入居者の状況に応じて体制を整え、職員とも話し合い調整している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初の職員はほぼ異動や離職しておらず、入居者にとってはなじみの関係となっている。パート職員の離職については、随時補充に努め、入居者への負担、ダメージを防ぐようにしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各職員にそくした、研修に参加してもらっている。修了後は報告書の提出や勉強会の開催を行い、職員全員に学ぶ機会を設け、スキルアップにつながるようにしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームへ訪問し、意見交換を行ったり、近隣のサービスの行事に参加するなど交流をしている。又、居宅介護支援事業所との情報交換も行っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日頃から、よくコミュニケーションをとり、意見等を言いやすい様な雰囲気や場を作る様に心がけている。年1回長期休暇をとれるようにし心身共にリフレッシュできる様にしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>業務を分担し、担当者を決めて、目標を掲げ責任を持って取り組んでいくよう指導し、実績を評価している。</p>	
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時は事前に家庭訪問にて、ご本人から直接話しを聞き不安の解消に努めている。その上で問題点や不安に思うこと、疑問点などを早期に解消できる様にし、職員と入居者との間に信頼関係が築ける様に努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前の家庭訪問時や、入居されてからも、都度ご家族からの話や質問など丁寧に聞ける体制になっている。些細な事柄も職員に申し送りし全員が対応できるようにしている事で良い関係ができています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとって、最善の生活、ケアが行える様に職員や介護支援専門員、家族、必要に応じてかかりけ医と連携し、ご本人や家族の意向に沿った対応ができる様にしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族、入居者から生活歴や情報を収集したり、必要であれば体験入居なども取り入れ、今までの生活に近い状態で過ごせる様している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	穏やかな言葉かけや、優しい雰囲気ですれ落ち着ける場所を作る様に努め、安心できる関係性をつくる様にしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ケアカンファレンスに参加して頂き、家族の意向なども反映しながらご本人により良い生活ができる様に努める。又、ホームの行事などに家族も参加して頂き、楽しみの時間を共有し、良い関係を築ける様に支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人と家族の関係がより良く保てる様に面会時間も制限していない。家族との外出やホーム内で一緒に食事・宿泊も可能にしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外出支援や自宅近くでの行事やお祭りなどに参加し、なじみの人や場所との関係が途切れない様に支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	他人同士が生活する中でトラブルが起きたりする事も生活の一部ととらまえているが、大きなトラブルになる前に、回避しお互いに思いやりの持てる関係になる様に支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご本人、家族とは入居された事を「1つの縁」と思い、継続的に支援や相談に応じる様にしている。必要に応じて協力機関の紹介や依頼も行う様にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や思いを傾聴し、把握に努めている。ご自身で意思を伝える事が困難な方は家族の意見を踏まえ、職員で話し合いを持ち把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族から生活歴等の情報収集を十分行い、フェイスシートを作成し職員全員が必ず目を通し把握できる様にしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人記録にて、毎日の生活を把握している。職員全員が目を通し、情報を共有している。入居時と3ヶ月毎のアセスメントにて本人のできる力、わかる力を把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	可能であればご本人から要望を聞き、ケアプランに反映させ作成している。意思を伝える事が困難な方は、職員や家族と話し合いの場を持ち作成している。月1回職員会議の中で現在の問題点や改善点などを検討する機会を持っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	要望、状況の変化があった時は、緊急カンファレンスを開き、新たな介護計画を見直し作成している。その都度家族には提示し説明している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録ケアプラン表、介護経過、モニタリング(ケア実施表含む)を元に職員全員が情報を共有し、都度変更事項について見直しをしている。又、職員の意見を吸い上げやすくする為、「気づきノート」を設置し、ケアに関する事、環境面、衛生面など、何でも気づいた事を記入できるようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望に応じて、外出の支援、病院受診の支援、ショートステイの受け入れなど、柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	2回/週、ボランティアの受け入れを行い、入居者と共に家事などをしていただいている。他に市の生涯学習のボランティアによる演芸会、コンサートなども開催している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	希望者のみ、地域の在宅マッサージを利用している(2回/週)		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在該当者はいない。今後必要に応じ、地域包括支援センターと協働していく。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1回/2週 かかりつけ医の往診と、1回/週 看護師の訪問を受け健康管理に留意している。又急変事は救急にて医療機関を受診できるよう体制をとっている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の状態をよく把握し、相手に合わせる様に心掛けている。言葉かけや日常のケアについて、不快な思いをされない様、職員同士で注意しあったり、指導している。入居者の個人情報については鍵付きロッカーの保管し秘密保持の徹底を行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自ら話し出すきっかけを作れるような話題作りや、話は最後まできちんと聞くようにしている。又、ご自身で意志の決定が出来る様な場面を作れる様にしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴などの時間を決めず、お一人お一人の生活を第一に大切にする様に心がけている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近隣の美容院から、月に1回出張美容に来てもらっている。美容院の方へ出向いている方もおり、気分転換や地域の方とふれあって頂いている。衣服は常に清潔を保ち、ご自身で選んだり、着脱が出来ない方は同じ服装にならない様に、心がけている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的なメニューを基本に、誕生日会や、行事に合わせて特別メニューを取り入れている。食事の盛り付けや配膳を手伝ってもらったり、できる方は食器ふきやあと片付けをしてもらっている。個人の好みや禁忌については職員全員が把握できるように情報を共有している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人の嗜好品については、制限しておらず、食事の際晚酌される方もいる。おやつや飲み物も何種類か用意しており、好きな物を選んでもらう事もある。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄時間を記録し、パターンを知り誘導を行っている。入居者の中には安心の為、パットを希望される方もあり、その方の状況に応じて対応している。		
	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる様になっており、柔軟に対応している。お一人で入浴される方には、プライバシーを守りながら安全面にも配慮し、声かけ、見守り等を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は、しっかり活動する様に支援し、夜間眠れる様に生活のリズムを整えている。個人の状態に合わせて、短時間の午睡をとってもらっている方もいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意な家事作業や散歩、おやつ作り、頭の体操、体操などの日常アクティビティを積極的に行っている。又、外部より講師を招き、音楽の会、操体法など月に1回行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望により、ご自身でお金(おこずかい程度)を管理している方もいる。買い物の際は、職員が付き添い、自分で物を選んだり、レジでの支払いなどを支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩、地元のお祭りなどに出かける様にしている。外出が難しい方は車椅子での散歩や、玄関先での日光浴などをしてもらう様にしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の行事を通して、外出する機会を設けている。お誕生日に外食したり、コンサートやデパート、春と秋には自然に触れ合える場所への外出などを行っている。家族との外出も自由で、旅行に行かれる方もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、施設内の電話を利用して頂いている。手紙については、ご自身で書ける方については、ハガキなどを購入し書いて頂いている。年賀状や暑中見舞いのお便りは入居者と一緒に作成し家族様にしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に制限しておらず、気軽に訪問してもらえる様にしている。訪問時は、気遣いなく過ごせる様に居室以外にも1階、2階居間などを提供している。職員も挨拶や明るく応対する様に心がけ、いつでも訪問しやすい雰囲気づくりに努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は当然の事ながら、一切していない。見守りが十分できる様に職員配置をし安全面に配慮しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全を確保しながら、玄関は開放し、閉塞感をなくす様に努めている。夏場は網戸にし外気を取り入れる工夫をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間共に職員を多めに配置し、常に入居者がどこで過ごされているかを把握出来る様にしており、安全に注意を払っている。お一人お一人の行動を制限せず、さりげなくかかわったり、居室の開け閉めもプライバシーを尊重した対応をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物などの危険な物品は入居者の目の届かない所に保管しているが、使用の希望があった場合はスタッフが付き添う様にしている。ハサミについては自己管理ができる方のみ、所持してもらっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員が緊急時にどう対応したらいいのかを、勉強会などを通じてシュミレーションしたり、ホーム内の環境整備を整え、事故のない様に努めている。又、ヒヤリハットを活用し、職員の注意力や意識づけの強化を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故等に備え、勉強会を行い職員が常に迅速に行動が出来る様に努めている。AEDを設置しており、使用方法や人口呼吸法など内部研修も行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を4回／年行い、消防署との連携(H19年11月～)もできており、1回／年消防署を交えての訓練も行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族には、入居時やケアカンファレンス時には、リスクについて、詳しく、説明し理解して頂いている。又、職員間でも起こり得るリスクについて話し合い、常に意識の中におくようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	午前と午後にバイタルチェックを実施し、体調の異変などには留意すると共に、口頭での申し送りと記録を行っている。状態が悪化すれば、直ちにかかりつけ医と相談し指示を受ける体制となっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬箱に「服薬表」を設置、職員が把握できる様に、している。服薬時は必ずご本人の薬であるかを確認し、ご自身で飲まれる方はきちんと飲まれるまで、見守りする様にしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事や水分など予防や改善に適している物を工夫したり、散歩や体操なども生活の中に取り入れている。なかなか改善されない方には、医師より緩下剤などを処方してもらっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	介助の必要な方には、起床時と毎食時、口腔ケアを行っている。口腔ケア用品も入居者の状態に合わせ、変えている。個人の力に合わせた支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分量を、毎食後記録し、職員がすぐに見れるようになっている。不足している場合は、補食するなど工夫している。入居者の状態に応じ、キザミ食、ペースト食、水分にトロミをつけるなど対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルの基づき職員全員が手洗い、消毒の徹底を行っている。又、外部講師による感染予防の講習会や職員会議などで、職員の意識づけを行っている。又、家族や来訪者の方には玄関で消毒して頂いている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は適した保管方法で管理し、冷蔵庫は常に清潔にし、食材が傷んだり、賞味期限切れのものが無い様にチェックしている。台所や調理器具はハイター洗浄、アルコール消毒など毎日行い、食中毒の予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物が民家のような造りで、玄関前には季節の草花を植えるなど、明るい雰囲気づくりを心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は家庭で使用している家具や照明器具を設置し、季節ごとの小物や写真を飾るなどしている。時間により音(人の声、テレビ、音楽など)を小さくしたり、照明の明るさを調節している。居間では入居者同士の会話をさえぎらない様に職員同士の声などをセーブし、入居者が不快にならない様な空間作りを心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階、2階共に椅子やソファ、玄関や玄関前にベンチを置き、好きな時間に、好きな場所で過ごせる様にしている。事務所もオープンスペースになっており、職員の横に座りおしゃべりして行かれる方もいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や調度品、使い慣れた生活用品などを自由に持ち込みして頂ける様にしており、元の生活に近いかたちにし、不安な気持ちが軽減できる様にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室、居間共に状況をみながら、換気・温度調節を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人、お一人の身体機能を生かし、生活出来るよう、広すぎず、狭すぎず、適度な間隔を設けている。廊下、エレベーター、居室内も危険物は置かない様にし、事故防止に努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	分かる力に応じた環境を整え、自立につながる工夫をしている。(カレンダー、室内に食事の時間等の表示など)		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前に草花を植え水やりをして頂いたり、ベンチ等を置き夕涼みなどできる様にしている。ベランダに関しては、避難経路となっている為、使用していないが、小さなタオル掛けを置き、ご自身でタオルを干したりされている方もいる。		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

・日中、夜間共に認知症に精通した経験豊富なスタッフを大目に配置し、お一人お一人の生活の質、ケアの質をより良いものとなる様に努めている。

・本人や家族の希望や意向に沿ったケアプランを充実させ、分かる力、出来る力を引き出すように職員全員で取り組んでいる。